

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ケア理念に『住み慣れた地域で、その人らしく「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」暮らせるよう本人の想いを大切にしていきます。』とかかげ、日々取り組んでいる。その人らしい人生の継続の支援をさせて頂くというユニット独自の理念を念頭に置き地域との交流したり、地域に貢献していくよう理念として掲げている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	新人オリエンテーションで周知し定期的な会議にて話し合いの場を持ったり、日々のケアの場面場面で立ち止まり、理念の振り返りを行っている。	○	個々のスタッフに、日常場面の中で伝えていく必要がある。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念はホーム内にも掲示し共有出来るようにしている。運営推進会議を通じて伝え理解を得ています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	回覧板は利用者様とスタッフで隣の家に届けに行ったり、挨拶・声を掛け合ったりしています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会主催の大掃除や花壇作り、お祭り等の町内会行事に積極的に参加させて頂いています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	管理者をはじめ職員は、地域の研修会等に参加し、その結果を会議で伝達し情報を共有しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>評価項目の理解をしているが結果が伴わない内容があるので、具体的に取り組む必要がある。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>介護相談委員の訪問などでありのままの状態を見て頂き意見を頂いている。また、市内のグループホーム協議会研修に市の担当の方の参加もあり、交流が図れています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>勉強会等開き制度への理解を深めている最中です。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>虐待防止の研修会参加し、会議等で、日々のケアの中で、小さなことでも気づいたら、話し合いを持ち、行動・言動で虐待の可能性はないか注意している。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約時には、時間をとって事業所とホーム内のケアに関する考え方や取り組みの説明している。利用料金や重度化や看取りについての対応など詳しく説明し同意を得るようにしている。入居後も随時補足説明・相談に応じ理解が深まるようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。			
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	金銭管理はお小遣い帳のコピーとレシートを月一回はうすたよりを発行し行事の報告や翌月の行事の予告等をしています。また、個別に日々の健康状態や様子を適時に電話で報告行っています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。			
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。			
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。			
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>市で開催する研修会や協議会主催の研修を受講できるようにしたり、それらを会議等で発表してもらい、研修報告を閲覧できるようにしている。また、日々の現場で働きながら学ぶ機会も大切に助言・アドバイスしています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内のグループホーム連絡協議会等参加しネットワーク作りや研修会を通し質の向上に努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所に至るまでに面談等通じて入所に対する不安や状況を把握する事により、信頼関係を築きスタッフが本人に受け入れられるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族の状況と本人の状態を把握する事により、ニーズを明確にし、相談に来られた家族様にはこれまでの苦労や今までのサービスの利用状況やこれまでの経緯について、ゆっくり聞き、次の段階の相談へと繋げている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。			
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族とスタッフの距離感を保ちながら、それぞれが、出来る事出来ない事を見極めて一緒に考え出来ない事は、出来る人が自然に支援して行けるような関係作りをしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人や家族の状況や思いを見極めながら日々の状態の報告・相談すると共に月一度のお手紙で写真など掲載したり日頃の様子を伝えたり、面会時には本人と家族の潤滑油になる様努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族協力頂き親戚の美容院へ行ける様支援したり、知人宅へ電話したりと継続的な交流が出来る様働きかけている。また、外出先で知人に出会ったり、訪ねて来られた際には、ゆっくりその時間を楽しんで頂ける様配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフ間で、利用者間の関係性について情報連携し共有出来る様にして、個々に合った時間の過ごし方・気の合った仲間との場面作りを心掛けている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院された場合はお見舞いに行ったり、継続的な関わりが必要な家族とは連携を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人のニーズや暮らし方の希望の把握に努め、思いは大切に受け止め希望される生活に近い場の提供を家族含め検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時にご本人やご家族などから聞き取る様になっています。また、日常会話の中で本人自身の語りやご家族訪問の時など把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その人の生活リズムを把握すると共にその時の身体的・精神的な変動を感じとり、有する現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	自分らしくあるために、本人や家族の要望を聞き、課題となる事を関係スタッフでカンファレンス行い介護計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の変化に即して、遂行状況、効果等を評価するとともに、期間終了前でも、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のかかわりの中から気づきやアイデアが生まれた時はカンファレンスノートに記しスタッフ間の情報共有を徹底し評価が得られたらルール化する。尚も、継続的に課題分析必要な場合は、ケース検討し介護計画の見直し、評価へ繋げている。	○	職員間の情報共有に足りない部分あり見直し行って行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員会に民生員の方の協力頂いています。また、消防の方には年2回避難訓練時にアドバイス頂いたりしています。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理美容サービス利用		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族様、または本人の希望するかかりつけ医となっている。</p>		<p>10月より受診体制変わり、家族様対応か往診対応になった方もいて、医療機関とご家族様と情報共有し関係を密にし利用者様に負担のない様に支援して行きたい。</p>
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ご家族ご本人の希望する医療機関を利用しています。認知症の専門医に限らずご本人や家族、スタッフのお話を熱心に聞いてくれて、適切な指示や助言をもらえている。</p>		
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所の看護師が週3回出勤し日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。いない時間帯は電話にて状況報告し、確実な連携を行っている。また、利用者様の通院されている医療機関との連携も密にとれる様関係作りを行っている。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入所時にご家族様より、事前指定の同意書を頂いています。重度化や看取りの指針があり、日常生活でご本人の思いや希望を察知すると共に、重度化になった場合には、ご本人・家族の希望を最大限尊重しながら、ホームの限界も十分理解頂いた上で、希望に沿いながら安全に過ごして頂ける様、最善を尽くしたいと思います。</p>		
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>グループホームだから出来る事、医療機関だから出来る事を柔軟に見極めて、本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合いながら利用者様が安心して終末期を過ごして頂ける様取り組んでいけたらと思います。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入所時にはご本人の意向を聞き、ご家族と連携を図り、住み慣れた生活空間に近づくよう環境配慮行いリロケーションダメージを最小限食い止めるよう努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフ会議や日々の引き継ぎの中で、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認し合ったりして、さりげなく利用者様にかかわれるように配慮しています。	○	スタッフの何気ない言動で、利用者様はどのようにとらえるのか常に意識しながら、気配り、心配りを忘れず対応して行きたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合った利用者様へのコミュニケーション技法を使いながら、ご本人が意志を表現出来るような場面設定を心掛けている。(着たい洋服・食べたい物・飲みたい物・等)	○	知らず知らずの内にスタッフが決めつけ納得ではなく説得になっていないか、現状の満足で終わらずスタッフのレベルアップに努める。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日、その時で本人の気持ちを尊重し、過ごし方・ケアのあり方に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個々の生活習慣に合わせ支援行っています。家族様の協力で馴染みの美容室でカットしてもらえるよう連携を取っている。スタッフも一緒におしゃれを楽しんでいます。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、スタッフと利用者が同じテーブルを囲んで見て楽しく！食べて美味しく！食事出来る様雰囲気作りを大切にしています。また、旬の食材、個々の好みを踏まえたメニューを工夫しています。(大人様ランチ・中華ランチ・和定食等)	○	元気の源食を通して日々元気に過ごして頂きたい、安全に楽しく食事提供して行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の嗜好物を理解しており様子や時間を見ながらそれらを楽しめる様に支援しています。喫煙する方には喫煙所の設置をし支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	24時間シート使用し時間や習慣の把握をしトイレ誘導する事でトイレでの排泄を促している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望伺い入浴勤めるとともに、気分が入浴したい日、時間帯に入浴出来る様支援行っている。	<input type="radio"/>	・入浴好まない利用者様には声の掛け方など工夫し安心して入浴して頂いています。 ・個々の身体状況に応じ足浴し薬塗布したりしています。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活リズムを把握し、その日の体調や表情、希望などを考慮し、ゆっくり休息がとれる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の力を見極め、役割、楽しみが見つけれられる様、お願いできそうな仕事を頼み、必ず、ありがとうの感謝の言葉を伝える様にしています。	<input type="radio"/>	
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	御家族の協力を得てお金を持っている方もいます。受診時、買い物の時支払える様支援しています。	<input type="radio"/>	現金を持つところにより、安心感があり、決まった金額をお財布に入れていく方もいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望を尊重し、散歩へ出掛けたり買い物への同行、天気や体調を考慮しドライブや外食にも出掛けてます。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個々の行きたい場所がある時はご家族に協力して頂いたり、ホームの行事に取り込めるよう検討し実現できる様支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や友人からの電話は他の利用者に聞こえない様場所を配慮している。ご家族に協力して頂き、年賀状や手紙を出せる様に支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は設けずいつでも来て頂けるようにしています。ゆっくりくつろいで頂けるように心掛けています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていませんが、知らないうちに行われていないか等、日々の申し送りの中で振り返るようにしています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵かけは行っていません。外出される方については、引き止めず職員と一緒に自由に近隣を散歩しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。			
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	特に注意の必要な刃物などは預かるようにし、必要時に手渡すようにしています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒアリ・ハット報告を作成し、職員全員が把握し再発防止の為に取り組んでいます。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	AEDの講習を受けているスタッフや、他ユニットと合同で消防署の協力を得て蘇生術の研修を受け緊急時に対応できるようにしている。また、緊急対応のマニュアルを整備し周知徹底を図っている。	○	すべてのスタッフが同じような対応が出来ないので、定期的なシュミレーションを行ったり、今後も講習は必要である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認、火災通報装置・消火器の使い方などの訓練を利用者様交え、2階ユニットと一緒にやっている。地域の方には避難訓練実施のポスターをポスティングし参加の呼びかけを行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者一人一人に起こりうるリスクについては、状況把握し、スタッフ間で話し合い統一するとともに、ケアプランに反映させ、家族の方に具体的に説明し最善の対応策を一緒に考えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々の病歴や留意事項を把握し、普段の状態、表情、食欲、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけ、状況に応じて医療機関へ繋げています。	<input type="radio"/>	朝日勤者がバイタルチェック
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に薬の説明書をファイルに整理し、内容を把握した上でスタッフが薬セットしている。服薬時は、本人に手渡し確実に服用したか確認している。	<input type="radio"/>	
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日常の活動のあり方を見直し、食事のバランス、水分、運動と服薬以外で可能な限り自然排便できるよう個々の状態の把握に努めている。	<input type="radio"/>	自然排便排泄されない方は主治医と相談し定期的な排便促す事により体調管理保たれている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は歯磨きうがいを促し、介助が必要な方には介助を行い、就寝時には入れ歯洗浄剤にて付け置き行っています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立日誌に個別の摂取状況記録し、嗜好を把握しメニューに反映できる様支援しています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては、その時の情報を的確に収集し早期発見、早期対応出来る様利用者、家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として消毒等物品一式セットにして備えています。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、水回りの清潔、衛生を保つよう職員で取り決めて実行している。食材は新鮮で安全な物を購入するよう配慮している。	<input type="radio"/>	毎日、ふきん・まな板塩素につけ置きし、冷蔵庫内は週2～3回塩素系で拭き掃除行っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気になるように、お花を置いたり、椅子を置き安心して靴を履きかえられる様に工夫しています。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	五感刺激の色・光・陰・においなどへの配慮するが、ちょっとした音(食器を片づける音、玄関センサーの連続音、足音、ドアの開閉音など)で利用者の不快音と認識し配慮するがTVのボリューム音も個人差があり十分な配慮が出来ていない時がある。	○	利用者を脅かさないよう、スタッフ間で共通認識を持ち、日常的に意識して対応して行きたい。また、季節感のあるディスプレイや行事毎の写真コーナー設けて掲示している。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者一人一人が共有空間の中で喫煙場所・ダイニングテーブルのご自分の席・TV前の定位置など好みの空間で自然に過ごせるよう工夫しています。	○	利用者関係、その時の状況に応じて、新たな発見をしスタッフ間で検討する。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居に際しては本人が使い慣れた物を自由に持ち込んで頂き、居心地の良い安心感の得られる空間づくりをして頂いています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内の各所に湿温度計・加湿器を設置し、換気・温度調整を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活空間で日々の身体的状態から転倒につながる原因がないか常にチェックし環境整備を行い安全確保と自立への配慮をしている。	○	スタッフの気づきと日々の洞察力で危険の回避を行って行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人に合わせた対応に心掛けています。状態の変化に応じて職員間で対応などを話し合ってます。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には花を植えたり、畑のスペースを確保しています。また、テラスにはテーブルやイスを設置し外気浴が出来る様配慮しています。		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 2利用者の2 / 3くらい 3利用者の1 / 3くらい 4ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 2数日に1回程度ある 3たまにある 4ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 2利用者の2 / 3くらい 3利用者の1 / 3くらい 4ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 2利用者の2 / 3くらい 3利用者の1 / 3くらい 4ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 1ほぼ全ての利用者 2利用者の2 / 3くらい 3利用者の1 / 3くらい 4ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 2利用者の2 / 3くらい 3利用者の1 / 3くらい 4ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 2利用者の2 / 3くらい 3利用者の1 / 3くらい 4ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 2家族の2 / 3くらい 3家族の1 / 3くらい 4ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1ほぼ毎日のように 2数日に1回程度 3たまに 4ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	1大いに増えている 2少しずつ増えている 3あまり増えていない 4全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	1ほぼ全ての職員が 2職員の2/3くらいが 3職員の1/3くらいが 4ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1ほぼ全ての利用者が 2利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1ほぼ全ての家族等が 2家族等の2/3くらいが 3家族等の1/3くらいが 4ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・利用者様の笑顔を引き出せるように、職員も明るく元気に接するようにしています。
- ・地域行事の参加、外出